



町長室だより

築上町長 新川 久三

月日の経つのは早いもので、もう師走となりました。今年一年も依然としてコロナ禍の影響が大きく、本町でも陽性者が90人を超えました。年末になり鎮静化しつつあります。

築上町の10大ニュース

今年の築上町の10大ニュースを挙げてみました。

- 1 新庁舎完成・供用開始
 - 2 新型コロナウイルス接種開始
 - 3 本町出身大森美香さん脚本の大河ドラマ「青天を衝け」放映
 - 4 税金・上下水道料金スマホ決済導入
 - 5 東京2020オリンピック聖火リレー
 - 6 本町出身大場崇晃選手ビーチサッカーワールドカップに日本代表で出場し、準優勝
 - 7 F4戦闘機(ファントム)をメタセの杜に展示
 - 8 京築広域圏の消防業務と医療業務を分割
 - 9 B&G防災拠点事業決定
 - 10 大相撲 松鳳山関 幕内の最年長者で九州場所十両から復帰
- 皆様もご自分の10大ニュースを挙げてみてはいかがでしょう。

延塚奉行の遺徳

築城郡の筋奉行、延塚卯右衛門は天保7(1836)年の未曾有の災害に対して、農民が藩

から借用している根付料が返済できないのを見かねて、藩へ返済免除の具申をしました。しかし、藩は聞き入れなかったため、延塚奉行は独断で根付料免除の御触れを出したのです。そして延塚奉行は、子の藤九郎に遺言状を残し、12月朔日に奉行所で藩への不忠に対して切腹により責に帰しました。

この奉行の葬送には、農民が感謝の意を込め、長蛇の列でお参りしたとの逸話も伝承されています。

昭和30年に椎田町、八津田村、葛城村、西角田村の1町3村が合併して旧椎田町が発足し、初代町長の辻畑重俊氏が代表発起人となり、延塚奉行顕彰会が設立されました。町民の方に浄財を募り、当方で1千万円を集め、顕彰碑の建立や奉行の胸像の作成、顕彰武道大会の経費等に費やし、残りは後世のために基金として残しています。なお、奉行のことを子々孫々語り伝えるために、時の町長が顕彰会の会長を務める規約となっています。

顕彰会では毎年各自治会のご協力のもと募金をお願いし、ご芳志は顕彰武道大会や供養祭等の経費として充当しています。

毎年この季節には話題に挙げていますが、延塚奉行の行いは私たち築上町民にとっては普遍的なことであり、いつまでも彼の遺徳を偲び報恩感謝をし続けなければなりません。皆様のご理解をお願い申し上げます。

令和4年が皆様にとって良い年でありますとともにご健勝でありますよう念じながら今年最後の町長室だよりといたします。